

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470201290		
法人名	(有)コーブンシャ		
事業所名	グループホーム ほのぼの平尾の家		
所在地	三重県四日市市平尾町78-12		
自己評価作成日	2013年11月7日	評価結果市町提出日	平成26年1月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470201290-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 25 年 11 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

数年後には近くに大きな道路が出来る予定であるが、まだまだ自然に囲まれた環境で、四季の移り変わりが感じられる場所です。
家のすぐ前には公園が有り、木々や花がたくさんあり散歩などで利用させて頂いています。そこでの地域の方々、そして子供たちとのふれあいも大切にしています。
月一回のふれあい広場にも利用者が交代もしくは全員で参加させて頂き、交流を深める場にもなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

すぐ前に公園があり、居室から見える田園風景がとても素晴らしく、自然環境に恵まれた、笑顔と会話のある明るくて家庭的な事業所である。毎月開催される平尾町ふれあい広場に利用者と職員が交替で参加している。また、今年から老人会の忘年会へ招待されたり、地域のイベント等へ職員と一緒に参加している。自治会に開所当時から加入しており、散歩中にいつも住民との挨拶があり、近所からの野菜等の差し入れもあり、地域住民との日常的な付き合いがある。運営推進会議に近隣住民が参加しており、地域に開かれた事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様と職員全員で公園に散歩に行ったり、毎月のふれあい広場に参加させて頂いたりと一緒に楽しく、地域とのつながりを大切に心掛けています。	管理者と職員が、地域とのかかわりを大切にしながら、家庭的な雰囲気の中で、事業所の理念を共有し支援を実施している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月一回の地域の行事に利用者様と職員で参加させて頂き、楽しく過ごさせてもらっています。昼食を頂く時もあり、今年は忘年会にも呼んで頂き、感謝しています。	事業所開設当初から自治会に加入している。また、毎月、平尾町ふるさと広場に利用者と職員が参加している。今年は老人会の忘年会に招待されており、地域住民と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事に参加させて頂いた時、運営推進会議の時、ご家族から等、高齢者の事で悩んでみえる方がおられたら相談にのっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回の定期開催を継続しています。家族様、地域の方、行政機関の方々と有意義な情報交換の場として活用させて頂いています。	二ヶ月に1回、市介護高齢福祉課・包括支援センター・利用者家族・自治会長・民生委員・近隣住民の参加で定期的開催されている。特に近隣住民の方3名が毎回出席され、情報交換がサービス向上に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議でお会いする程度ですが、貴重なご意見・ご指導を頂いています。また、運営推進会議報告書の提出時に近況報告など情報交換しています。	運営推進会議を市介護高齢福祉課職員、包括支援センター職員との情報交換の場として有効に活用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしてはならない事である為、職員全員で話し合い、理解に取り組んでいます。	常に身体拘束について職員で話し合いを持っているが、最近骨折した利用者があり、家族の了解を得て、睡眠時のみベットに柵を設置している。玄関の施錠は目を離すと自分で勝手に鍵を開け外へ出ていく利用者があり、施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても職員全員で話し合う場を持ち、理解に取り組んでいる。気が付いたら、お互いに話し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、学ぶ機会を検討し、活用できるようにしたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所して頂く際に詳しく説明させて頂いていますが、何か疑問があればその都度話をさせて頂く様にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や薬を届けて頂いた時等に直接家族様と話をさせて頂いたり、電話でも話をさせて頂いたりしています。	運営推進会議の時や家族の面会時、薬を届けていただいた時等の会話で意見要望を聞いている。面会に来れない家族には電話で、意見や要望を聞き事業所の運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングや、普段いつでも話を聞き伝える様にしています。	管理者と職員の連携がよく取れており、日々の利用者への支援で気づいた事等を月1回のミーティングで意見や提案を話し合い運営に活かしている。最近では、会社の常務取締役も参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員から出た要望等はまとめて管理者から上司に伝える様にしているが、難しい状況である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務状態をみながら、なるべく順番に研修に参加するようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外研修の活用の継続		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人及び家族様から、困り事・不安な事・要望等色々な話を聞き取り、入居してからも生活リズムを把握するように努め、信頼関係づくりに取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後はご本人の状況を面会時や電話の際にその都度報告させてもらっています。その話の中で要望等もあれば随時取り入れる様にし、関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みから入居までに何度か説明やお話し、施設の見学してもらったり、ご本人様の面接をさせてもらったりする中で、現在本当に必要な支援は何かを見極め、時には他のサービスを紹介させてもらったりと、誠実な対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の個性を尊重し、本人主導での日常の家事への参加等、家庭的な雰囲気作りを通して、家庭的な関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の協力により成り立っているということ念頭に置き取り組んでいます。また、二週間に一回はご本人様への面会をお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様や知人などの面会、外出等は要望通りに支援させてもらっています。	ふるさと広場への参加で、昔の顔馴染みの人と話す事もある。希望があれば外出支援を行っているが、家族の面会も多く、最近は家族との外出が増えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誰とでも仲良く話してもらえる様、時々席替えをして関わりあえる様にしています。間に職員が入り孤立のない様に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様から連絡があれば対応・支援させて頂きたいと思っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の日常生活の中で、本人の思いをくみ取る様に努力しています。困難な場合は家族様から聞き取りしたり、利用者本位になって話し合っています。	日々のかかわりや会話から、利用者の思いや意向・要望を聞き取るようにしている。軽度の利用者においては、日々の思いが変わり把握に困難をきたす事もあるので、申し送りや連絡ノートで情報を共有し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時までに家族様や在宅時の担当ケアマネージャー、医療機関等と連携を取りながら、情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック等で体の変化を把握し、安心して生活して頂ける様努め、退屈されない様にご本人の出来る事を見つけたりしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティングの際、利用者様一人ひとりのカンファレンスを行い、ご本人様のより良い生活の為の課題と、ケアのあり方について話合っています。ケアプラン案作成時には家族様の意向も取り入れています。	職員全員で毎月開催しているケア会議で、利用者全員のモニタリングを行い、利用者の課題やケアについて話し合っている。家族の意向も聞き計画書に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に一日の様子を記録し、誰が見てもわかる様にしております。日勤者・夜勤者間で申し送り等で何かあれば直ぐに見直しをするようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急変時の受診や日用品の購入の代行等、家族様が忙しく対応が難しい時等、援助させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	平尾町の地域の方々の支援を受け、色々な行事に参加させてもらい楽しませて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員が月二回の往診を受けています。往診時には体調の変化、日常の様子を書いた受診表を記入し報告しています。何かあれば24時間体制で連携を取っています。	事業所の協力医療機関がかかりつけ医になっており、利用者全員が月2回の往診を受けている。体調の変化や身体状況、日常の様子を受診表に記入し報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、看護師が出勤するので、様子・体調等を伝え相談しています。緊急時はその都度電話対応や訪問してもらうなどして様子を診てもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様とは随時情報交換に努めています。また、病院関係者、特にソーシャルワーカーやケースワーカーと連絡を取り合い、病状の進捗状況や退院・面接の打ち合わせ等の情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けての対応については、契約時に現状の当施設における体制や環境では支援が困難であると説明して、理解してもらっています。	契約時に、現在の事業所の体制では重度化や終末期に向けての対応が困難である事について説明し理解していただき、重度化した場合は協力医療機関と相談し対応している。	利用者の重度化や終末期の看取りについては今後の課題である。事業所としての看取りについて、他の事業所の取り組みを参考に、職員間で事業所として出来る事を話し合い、研修することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	週一回の看護師の勤務時に指導を受けたりして、急変時や事故時の為の応急処置の方法を教してもらったり、指示を受けたりして少しずつ身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災だけではなく、地震の時の訓練を実施しました。また、日中に入浴がある為、入浴中の火災の避難訓練も実施しました。備蓄の方も進めています。	火災と地震を想定した訓練を年2回実施した。これまで実施した災害時の避難誘導訓練を、入浴中の火災訓練や夜間当直時を想定した訓練等に内容を変更して実施した。	毎朝の職員申し送り時に、火災発生時に的確な行動がとれるように、各担当(通報係、消火係、避難誘導係等)を確認することや、地域との協力体制への検討をお願いする。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各個人に合わせ、その都度対応の仕方を考え、不安になったり気分を害しない様に心掛けています。	挨拶や言葉使い、トイレ誘導、入浴時の会話等で、その都度利用者一人ひとりに合わせた対応を行い、プライバシーの確保について配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望は可能な限り応じてあげたいので、家族様の協力を仰ぎ、かなう様に働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自その日に合わせて対応する様、心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みに合わせ支援する様努めています。例) 散髪時、ご本人にどのような感じにしたいか直接話をしてもらったりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物や行事があれば、それに合わせたメニューを作ったり、どんな物が食べたいか聞いたりして工夫して作っている。職員も利用者様に交じって楽しく話をしながら食べています。	利用者が交替で、下ごしらえや配膳・下膳・食器洗い等を手伝っている。利用者の意向を聞き、その都度献立をたて、食材は差し入れの野菜を使ったり、利用者と一緒に買い出しに行っている。職員と利用者が一緒に会話をしながら食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた量・硬さ・刻み等考え召し上がってもらっています。水分補給にも気を付けています(特に夏場)。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ハミガキ・義歯の洗浄を行っています。夜間は義歯を洗浄剤に浸けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄をめざし、声掛けをしたり誘導したりしている。自立の方も汚染が無いが見守りさせてもらっています。夜間も失禁汚染が少しでも少なくなる様声掛けし、トイレ誘導させてもらう方もみえます。	排泄の一部介助が必要な利用者を除き、紙パンツやパットの使用で自己排泄が出来る。夜間のみポータブルトイレを使用している利用者があるが、声掛けやトイレ誘導、見守りで自分で排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を付け、水分補給や食べ物等で配慮しています。それでもダメな場合は主治医と相談し、薬を処方してもらい調整しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	二組に分け、一日おきに入浴してもらう様にしているが、体調等に合わせ臨機応変に対応しています。1人ずつゆっくり入って頂き、歌を歌ったり数を数えたり、楽しく入って頂いています。	一日おきに入浴しているが、体調や都合が悪くて入浴出来ない利用者には日曜日に入浴している。また、菖蒲湯やゆず湯、入浴剤等を使い、入浴を楽しんでもらうようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人その人に合わせ、布団の交換や室温にも気を付けています。夜間、眠れない方には会話をもったり、水分補給をしてもらったりとその都度支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	安全に服薬して頂ける様、二人の職員がチェックし仕分けをしている。ご自分で飲める方も、飲み忘れ・落としていないか必ず確認するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	退屈しない様にご本人の趣味・特技を生かせる様工夫しています。家事についても交代にしたりして色々お手伝いして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候のいい日は毎日散歩。その人その人に合わせコースを考えたりしています。交代で買い物、地域の行事の参加、季節の行事での外出等も支援しています。	事業所の前にある公園沿いの散歩コースを散歩している。また、毎月の平尾町のふるさと広場に交替で参加したり、食材の買い出し、花見、いちご狩り、回転ずしやスーパーでの外食等を実施して外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は金庫で保管し、本人が欲しい物・必要な物があれば、それから購入している。一緒に買い物に行ったときは、そこらご自分でお金を出して払ってもらったりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の対応。手紙も出せる様対応、または家族様がみえた時に渡しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにソファを置き、テレビを観たり、スペースがあるので体操で体を動かしたり、ゲームをしたり楽しく過ごして頂いています。季節の花を飾ったりして移り変わりも感じて頂ける様に気を付けています。	広い民家を改装した事業所であるが、木造で廊下階段等に手すりが設置してある。食堂兼居間も広くて明るく、大型テレビと大きなソファが置いてある。壁には利用者の作った、季節に合った作品が掲示してあり、ゆっくり寛げるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの席は一応各自決めてあるが、その時によって変わったりして気の合う方と楽しく話をしたりして過ごせる様にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使用していた物や家族写真等を置いたりして、自由に使って頂いています。	ベット・押入れ・クローゼットは備え付けで、衣類・持ち物等は綺麗に収納されている。窓も大きく明るくて見晴らしが良い。二部屋は民家改修のため他の部屋より少し狭くなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活して頂ける様、必要な方には各室内に手すり、ベッドの位置を変えたりと工夫しています。ご自分で出来る方には衣類も選んでもらって着て頂ける様にしています。		